

絵てがみ教室を開催しております。

入院患者様の絵手紙作図協力をさせていただいております。竹内政彦と申します。私もリハビリを受けている一人です。私は、43歳の時に脳出血で手術を受け、体幹機能障害で右半身不随となり、現在71歳になりました。苦しい時期も多々ありましたが、家族、病院、会社、友人等、沢山のみなさんに支えられて今の自分があります。色々な事に前向きに挑戦しました。その一つが絵手紙でした。もう約12年になります。患者様も、何かひとつでもいいので前向きに挑戦して下さい。下手は上手の始まりです。泣いても一生、笑っても一生。「さあ、笑おう」



<竹内政彦様>



西リハ菜園で秋の植え替えがありました。

すっかり涼しくなってきましたね。西知多リハビリテーション病院のテラスには花がたくさん！ですがおいしい季節の野菜も植えてある事をご存知ですか？涼しくなり夏のお野菜から秋、冬のお野菜へ植え替えが始まっています。患者様と畑を耕したり、植え込みを行ったり、もちろん収穫した野菜は患者様と一緒に調理をしておいしく頂いています。



駐車禁止

西知多リハビリテーション病院
薬局 駐車場

当院へお越しの方へお願い

病院の西側の駐車場（正面から見て左側）は、マンションの駐車場になります。絶対に駐車をしないで下さい。よろしくお願い申し上げます。



医療法人 メディライフ
西知多リハビリテーション病院
TEL(0562)54-3500
FAX(0562)54-3502
ホームページアドレス
<http://medi-life.jp/>
職員募集中! 詳しくはホームページにて
随時院内見学お受けします

機能障害により引き起こされた生活障害に対して、早期から充実したリハビリテーションを提供しています。患者さまの自立性を高め、生活再建を果たせるよう共に努力し、ご支援いたします。

〒478-0021 愛知県知多市岡田字野崎13 TEL(0562)54-3500 FAX(0562)54-3502
診療時間：9:00～12:00(月～土) 診療科目：リハビリテーション科・内科 ◎通所リハビリテーション(1～2h) ◎訪問リハビリテーション



西知多リハビリテーション病院情報誌

西リハだより

西知多リハビリテーション病院における画像検査

当院には画像検査装置として、マルチスライスCT装置、X線TV装置、一般撮影装置、骨量測定検査装置を備えています。

それでは当院で行っている画像検査をいくつか紹介します。

① 嚥下造影(VF)検査

脳梗塞後遺症、脳出血後遺症、パーキンソン病、筋力低下など様々な原因で食べる機能が障害された患者さんがおられます。VF検査をする事でどの様な食事形態なら食べられるのか、摂食嚥下のどの機能が低下しているのかがわかります。その結果、摂食嚥下リハビリの方針、食事の形態、食事の注意事項などが決定できます。VF検査は、医師、看護師、言語聴覚士、放射線技師が参加協力しておこないます。患者さんの家族が見学し、その場で検査結果を伝えることがよくあります。初回の検査では、全く食べる事が出来なかった患者さんがリハビリを行う事で、食事形態が徐々に上がり普通の食事を食べられるようになる場合があります。※最近食べ物をこぼすことが多くなった、むせるようになった、飲み込みし難い等ありましたら当院支援センターまでご相談ください。

② マルチスライスCT装置

高性能の16列マルチスライスCT装置は、短い撮影時間で患者さんの負担を減らし、最小スライス厚0.625mmの高精細画像を得ることが可能です。被曝低減技術を搭載(低線量での撮影が可能)で撮影した輪切りの画像から任意の角度の断面像や3次元表示画像を作ることでもできます。脳疾患、肺疾患、大腿骨骨折、椎体骨折、骨盤骨折などで、単純レントゲン写真だけではわからない詳細な病変を検出できます。

③ 骨量測定検査(骨密度検査)

閉経後女性、肺の病気のある方、喫煙経験者、糖尿病患者、長期寝たきり患者さんなどでは骨密度が低下しやすいです。当院では超音波を用いた骨密度検査を行っています。若い方と比較して骨密度が70%未満の場合、骨粗鬆症として何らかの治療が必要となります。

例:下の患者さんは63.9%ですので、骨粗鬆症と診断されます。



例:右大腿骨頸部骨折の患者さん

術前の3D-CT画像 術後の単純レントゲン写真

骨量測定結果

あなたの骨密度は63.9%です。これは、同年代の女性の平均値(75.0%)より低いです。骨密度が70%未満の場合、骨粗鬆症と診断されます。骨粗鬆症は、骨折のリスクを高める病気です。適切な治療を受けることで、骨折のリスクを減らすことができます。

西知多リハビリテーション病院

①VF検査撮影風景

②マルチスライスCT装置

③骨量測定検査(骨密度検査)

**急性期病院から回復期病院へ
転院された患者様の声**
(西知多総合病院から西知多リハビリテーション病院)

知多市内在住 中平辰生 様

診断名:右被殻出血、左片麻痺、高血圧
急性期病院:西知多総合病院 入院17日間
回復期病院:西知多リハビリテーション病院 入院97日間
現在の生活:介護保険のデイケアを利用しながら復職に向けてリハビリを行っている。



<中平夫妻>

1 急性期病院に入院する前の生活はどうか?

家の生活は、母と嫁の3人で生活しており、車も運転し、仕事も頑張っていました。また趣味は、ジョギングが好きで、市のマラソン大会にも参加しており、健康にも人一倍気を使っていました。

2 病院生活でつらかったことは?

トイレですね、最初は3人がかりでやってもらっていたので、本当に大変でした、また看護師さんも大変だったと思います。

3 当院入院生活でよかったことは?

動かなかった足が徐々に動くようになり、立つこと、歩くことが出来るようになったことです。トイレでの排泄が自分でできるようになったことが一番うれしかった。

4 退院前、不安だったことはありますか?

家での生活について不安はありませんでしたが、仕事復帰ができるのか?心配でした。

5 実際の生活は?

ある程度の日常生活のことは自分でできますが、しかし左手を使うようなことはまだ少し難しいですね。また実際に元の仕事をしてみましたが、難しかったです。もう少し左手が動いてくれば、

5 今後やりたいことは?

やっぱり仕事に戻りたいな、もう少し手の動きを訓練しながら復職に向けて頑張ります。あと釣りにも挑戦したいと思います。

5 同じ病気の人に対して?

私が経験したことで一番良かったことは、目標をもってリハビリに取り組めたことです。目標があるということはリハビリの意識づけになり、積極的なリハビリが出来たと思います。その結果、退院時、装具なしで歩くという目標を達成することが出来ました。次の目標である復職についても、今後妻と一緒に頑張りたいと思っています。どんな目標でもいいので目標を持ち一歩一歩すすんでほしいと思います。

●院内託児 すくすく・のびのび

法人内で院内託児を開設するにあたり『その時期にしかできない子育てを大切に、スタッフが親としても社会人としても成長していけるよう、すべてのスタッフで支え合う』という思いから、平成 27 年 5 月西知多リハビリテーション病院の開院と同時に院内託児《すくすく》は始まりました。その1ヶ月前に知多リハビリテーション病院では、院内託児《のびのび》は始まっています。

私たちは、病院スタッフが安心して子どもを預け、仕事に従事できると共に子どもたちも楽しく安心して過ごせる場であることを心がけ、【心豊かで笑顔いっぱい子ども】を目標に毎日保育をしています。

0歳児~2歳児を対象とした月極保育を始め、一時保育、病児保育、学童保育の対応をしています。現在は《すくすく》・《のびのび》合わせて月極保育18人(0歳児8人、1歳児5人、2歳児5人)の子どもたちを保育士8人で保育しています。土、日、祝日には保育園に通っている子どもたちも利用し、にぎやかな託児所になっています。

私たちは、家庭的で明るい雰囲気の中で一人ひとりの子どもの成長を大切にしながら、一緒に遊び、散歩に出かけ、自然と触れ合うことで心身ともに豊かな心を育てていきたいと考えています。また、年齢の違う子どもたちが一緒に生活して遊ぶことで、お互いを受け止め合い、やさしい気持ちを育める保育をしています。日常の遊びに加え、季節ならではの行事(子どもの日・夏まつり・七夕・運動会・クリスマス会・豆まき・ひなまつり・遠足)をしたり、母の日、父の日、敬老の日には、子どもたちからの手作りプレゼントも作っています。子どもたちはもちろん、スタッフの家族の方々にも喜んでいただけるように、スタッフ一同アイデアを出し合い、より良い保育を目指しています。

西知多リハビリテーション病院の3階にある庭園で遊ぶ《すくすく》の子どもたち、自然に囲まれた知多リハビリテーション病院のまわりで遊ぶ《のびのび》の子どもたちを見かけたら気軽に声をかけてください。子どもたちのかわいい笑顔をお見せできると思います。

